

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	千代田区立九段幼稚園
所在地	千代田区三番町16

1. 活動のテーマ

<テーマ>

わくわく動く「動」

<テーマの設定理由>

子どもたちが身近な環境の中にある“動き”に気付き、面白さや不思議さを感じながら関わることで、知的好奇心や探究心を育てたいと考えた。動くものの仕組みを見付けたり、自分なりに表現したりする経験を通して、感性や想像力、創造性を豊かにしていくことをねらいとして、このテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

令和7年5月～令和8年1月まで

5月2回 6月1回 9月2回 10月1回 11月2回 12月1回 1月3回

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・様々な自然物（枝、木の実、葉、貝殻など）
- ・水
- ・透明の容器、ボトル、水槽
- ・シート
- ・ビニール袋
- ・廃材
- ・テープ
- ・ミルク缶
- ・蓋が付いた容器
- ・水を扱える場所

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

<さまざまな水の動きとあそぶ>

- ・水道の蛇口をひねると出てくる水、プールで楽しむ水、そんな水の動きを改めて、様々な容器に入れてかかわることで、水の動きが様々に変化する面白さと不思議さと出会う。
- ・自分の手で試したことで、どの様に水の動きが変化するのかを楽しむ。
- ・水の動きと光が合わさる美しい世界に心動かす。

<廃材ピタゴラスイッチ>

- ・身近な廃材を使ってレールを作り、ビー玉転がしを楽しむ。
- ・レールを作ったり、自作のボールやビー玉を転がしたりする中で、平らな部分と高低差がある部分の動き方の違いや、傾斜、角度による落下速度の違いに気付く。

<これってこんな音かな>

- ・オノマトペに興味をもつ。
- ・叩く・振る・擦る・弾く・吹くなど、音を発生させる方法を考えたり、試したりする。
- ・自分なりに（または、友達と相談しながら）、音探しや音作りを楽しむ。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

<さまざまな水の動きとあそぶ>

- ・絵本『みずちゃぼん』を見たことをきっかけに、子どもたちは、カップの水をのぞき込みながら「しずくちゃん、いるかな？」と期待を膨らませていた。
- ・花びらや葉をそっと水に落とし、「浮かんだ！」と変化に気付いて喜ぶ姿も見られた。
- ・容器を傾けながら「なんで進まないのだろう」と何度も試してみようとするなど、探究的に遊ぶ様子がうかがえた。
- ・「見て見て！これ浮いたよ！」と友達を呼び、発見を共有する姿も見られた。保育者は「どうして浮いたのかな？」と子どもの気付きを受け止めながら問い返し、「他の入れ物でもやってみる？」と試す機会を広げられるよう、声を掛けるなどした。

<廃材ピタゴラスイッチ>

- ・期待を高められるよう、一人一つ自分用のボール（ビー玉ビー助）を作り、当日を迎える。「ちゃんと転がるかな？」と楽しみにしている幼児が多い。
- ・グループ毎に場を設定し、廃材を使ってレールを作る。平らな構成のレールと傾斜のあるレールの違いに気付いた幼児が「坂道にすればいいんだ」と仲間や教師に伝えていた。
- ・当初はグループで一つのレールを作る予定であったが、スタートからゴールまで自分一人で楽しむ幼児もいる。

<これってこんな音かな>

- ・絵本をきっかけに「これってどんな音かな？」と興味を膨らませながら、身近な素材を手にして音を鳴らし始めた。叩いたり振ったりする中で、「ぼこぼこ」「カラカラ」など、自分なりの言葉で音を表す姿が見られた。また、思い描いた音に近づけようと何度も試し、「もっとこうしたら高くなるかな」と考えながら素材の大きさや持ち方を工夫する姿も見られた。
- ・廃材や木の実、貝殻などを叩く・振る・転がすなど様々な方法で確かめ、自分の耳で音の違いを感じ取ろうとする子どもたちの姿が見られた。耳を近づけ、「こっちはかたい音」「転がすとちょっと違う音がする」とつぶやきながら、素材が変わると音も変わることに



## 5. 振り返り

- ・絵本『みずちゃぽん』をきっかけに始まった水あそびは、その後も継続して楽しまれている。子どもたちは浮き沈みや水の動きの違いに関心を持ち、自分なりに試したり、友達と発見を共有したりしながら、繰り返し遊ぶ姿が見られる。
- ・活動日だけでは仕組みに気付く幼児は少なかったため、翌日以降も自由に遊べる環境にしておいた。そうすることで繰り返し遊び試す姿があった。その中で高い所から低い所へ転がることや平らな部分で止まること（傾斜や角度、高低差など）に気付いていた。繰り返し遊び、レールがくたびれた頃にレールをひとつに繋げた。合体したことで魅力を感じたようで、興味の薄かった幼児も自分のペースで関わる姿が見られた。
- ・子どもたちが身近な素材から生まれる音に強く興味を示し、自分なりの表現で音を楽しみながら探究する姿が見られた。素材の扱い方を工夫して音の違いに気づき、友達と音を聞き合いながら共感し合うなど、主体的な試行と友達との関わりが自然に広がった。音への気づきや発見を共有し合う中で、子どもたちの表現や関わりの豊かさが深まったことが今回の大きな育ちであった。